




海外研修経験から見た大学図書館(1)

平成22年度 大学図書館職員短期研修
2010年10月8日(京都会場)

京都大学工学研究科 桂地球系暫定図書室
坂本拓



概要

1. ドイツ・スタディツアーの概要
2. ドイツの高等教育制度
3. ドイツにおける図書館政策
4. ドイツの図書館が私たちに語るもの



1. ドイツ・スタディツアーの概要
2. ドイツの高等教育制度
3. ドイツにおける図書館政策
4. ドイツの図書館が私たちに語るもの



ドイツスタディツアーとは？(1)

- ・ゲーテインSTITUTE日本支部が主催
- ・2009年 11/22 ～ 11/28 ドイツの5機関の図書館を訪問
- ・日本から、11機関12名の職員が参加。
国立情報学研究所, 科学技術振興機構, 北海道大学,
東北大学, 筑波大学, 一橋大学, 京都大学, 九州大学,
JAXA(宇宙航空研究開発機構), NIMS(物質・材料研究機構),
NIRS(放射線医学総合研究所)
- ・厳密には「研修」ではなく、相互の情報交換のためのツアー

ドイツスタディツアーとは？（2）

ゲーテインスティトゥート Goethe-Institut



- ・ドイツの外務省から、予算が支給されている、国際文化交流のための機関。（組織としては、外務省から独立している。）
- ・ドイツ語の教育と普及、およびドイツ文化の紹介のために活動。（世界76カ国に128の支部があり。）
- ・日本では、4つのミッションのうちの1つが「図書館活動。」



ドイツスタディツアーとは？(3)

訪問機関

- ・ドイツ国立図書館 (フランクフルト)
- ・ゲッティンゲン大学図書館 (ゲッティンゲン)
- ・技術情報図書館 (ハノーファー)
- ・バイエルン州立図書館 (ミュンヘン)
- ・マックスプランクデジタル図書館 (ミュンヘン)



ドイツスタディツアーとは？（4）

トピック

オープンアクセス、リポジトリ、ポータル、電子図書館、
セマンティックウェブ、ウェブデザイン、E-Science など
(5日間で、独日双方で、合計50本以上のプレゼンテーション)

* 今回は、聴いてきたプレゼンテーションの内容を深くは話しません。

詳しくは・・・

・ドイツの図書館を巡るスタディツアー

<http://www.goethe.de/ins/jp/lp/wis/sbd/jaindex.htm>

・情報管理 “ドイツの図書館におけるデジタル化とグローバル化の先進的な取り組み ドイツ・スタディツアー報告会 & ワークショップ”

http://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/53/1/53_41/_article/-char/ja

・カレントアウェアネス “ドイツスタディツアー報告 – 連携と革新”

<http://current.ndl.go.jp/e1041>

ほか、各参加機関のリポジトリも調べてみよう！



1. ドイツ・スタディツアーの概要
- 2. ドイツの高等教育制度**
3. ドイツにおける図書館政策
4. ドイツの図書館が私たちに語るもの


ドイツの高等教育制度 (1)

ドイツの大学

※ ほぼ全てが州立大学

- ・高等教育において、州の裁量権が極めて強い。
- ・州の財政状況が、大学の予算に大きく反映される。
- ・授業料は無料に近い。





ドイツの高等教育制度 (2)

ドイツエリート9大学

ドイツ連邦教育研究省が、国際競争力を持つ「灯台」となる大学を養成するため、重点的に追加予算を投入。

ミュンヘン大学, フライブルク大学, ゲッティンゲン大学, ハイデルベルク大学, カールスルーエ工科大学, アーヘン工科大学, ベルリン自由大学, コンスタンツ大学, ミュンヘン工科大学

予算の75%を、連邦政府が、残り25%を該当する大学の州政府が負担する。

*すべて、旧西ドイツの大学。

ドイツの高等教育制度 (3)

ゲッティンゲン大学

- ・18世紀前半に設立
- ・40名のノーベル賞受賞者を輩出
- ・学生数 24,057人
- ・研究者 2,409人

ゲッティンゲン大学図書館

- ・職員 常勤213人 非常勤76人
- ・蔵書 4,151,134冊
- ・図書館予算 8,574,617 Euro

* 全て2008年度の数値





1. ドイツ・スタディツアーの概要
2. ドイツの高等教育制度
- 3. ドイツにおける図書館政策**
4. ドイツの図書館が私たちに語るもの



ドイツにおける図書館政策 (1)

非中央集権制

- ・大学図書館も基本的に各州の裁量権の範囲。
- ・Niiのような統制をとる機関の不在

では、国全体に関わるような、
マクロ的な政策は、どうしているのか？



ドイツにおける図書館政策 (2)

DFG(ドイツ研究協会)

- ・連邦政府の予算により活動する、研究者の自治組織。
- ・ドイツ全土の研究者にとって有益だと思われる先進的プロジェクトに予算を供給する。
- ・意思決定は、所属研究者の民主的プロセスにより行われる。

- ・図書館に関するものでは、オープンアクセスに特に力を入れている。

※2010年度の予算は、2009年度比3%増。



ドイツにおける図書館政策 (3)

DFGのプロジェクト例 1

○特別収集領域

- ・1949年からスタートした、DFG(ドイツ研究振興会)の補助による、主題分担による資料収集プログラム。
- ・22の機関が参加。
- ・担当する主題は、国の内・外、媒体の紙・電子を問わず、責任を持って収集する義務が生じる。
- ・費用の全額をDFGが補助するわけではない。
(海外資料収集費用の75%のみ。)



ドイツにおける図書館政策 (4)

DFGのプロジェクト例 2

○ナショナルライセンス

ドイツ国内の全ての大学・研究所に所属する誰もが、自由に利用できる、電子ジャーナル・電子ブック・データベースの契約形態。

2009年度の契約タイトル数

電子ジャーナル	－ 44タイトル
フルテキストDB	－ 52タイトル
電子ブック	－ 8タイトル
書誌データベース	－ 6タイトル

年間平均費用 1500万ユーロ

ドイツにおける図書館政策 (5)

DFGのプロジェクト例 3

○電子ジャーナル図書館 <http://rzblx1.uni-regensburg.de/ezeit/>
1997年に、レーゲンスブルク大学が作成。

- ・電子ジャーナルの全ての契約情報を共有し、利用者のアクセシビリティを向上させるためのデータベース。
- ・参加している526機関が、手作業で入力。
- ・現在、34000タイトル。年間2200万アクセス。

Sie haben die Möglichkeit sich folgende Zeitschriften anzeigen zu lassen:

- Titel mit frei zugänglichen Volltextartikeln
- Titel mit Volltextartikeln, auf die Nutzer folgender Einrichtung zugreifen können:
bitte wählen Sie eine Einrichtung aus
- Titel ohne Zugriff auf Volltextartikel

zur Zeitschriftenanzeige



1. ドイツ・スタディツアーの概要
2. ドイツの高等教育制度
3. ドイツにおける図書館政策
4. ドイツの図書館が私たちに語るもの



ドイツの図書館が私たちに語るもの

○ドイツの大学図書館が持つメンタリティ

- ・帰属意識

ゲッティンゲン大学は、SFXを契約しているのに、なぜ電子ジャーナル図書館に参加しているのか？

- ・連携への志向性

国や館種別を超えた、他機関との連携を模索。

- ・研究者との親密性

[ドイツ全体の大学図書館予算]

2005年 461,857,000 Euro → 2008年 590,044,000 Euro

[ドイツ全体の大学図書館常勤職員数]

2005年 7514人 → 2008年 8420人



参考文献等

- 酒井由紀子, マーンケ, クリステル編
『ドイツにおける学術情報流通 分散とネットワーク』東京、日本図書館協会 2008
- DFG-Nationallizenzen <http://webis.sub.uni-hamburg.de/webis/index.php/DFG-Nationallizenzen>
(accessed 2010/10/07)
- ゲッティンゲン大学webサイト <http://www.uni-goettingen.de/de/24499.html>
(accessed 2010/10/07)
- ドイツ図書館統計webサイト
<http://www.bibliotheksstatistik.de/eingabe/dynrep/adbrowser/adbrowser.php?inr=AF007>
(accessed 2010/10/07)
- Statistische Bundesamt, Statistisches Jahrbuch
(ドイツ統計局ドイツ統計年鑑2005~2008)